Ⅲ　神明後遺跡第60地点の本調査に至る経過と概要

調査は分譲受託建設に伴うもので、原因者より2021年8月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を行った。

試掘調査は、同年9月7日～14日及び2022年1月5～14日まで行い、幅約1.5～1.7mのトレンチ17本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、古代以降とみられる大型土坑と井戸などを確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約30～170cmで、遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は、2022年1月17～21日まで、遺構が確認された中央部付近について行った。
遺構・遺物の平面実測は平板測量を用いた。

Ⅳ　遺構と遺物

本調査で検出した遺構は、中世期以降の大型土坑1基、近世期以降とみられる井戸1基、中世以降のピット28基、近世以降とみられるピット3基である。ピットの規模等については、第40表のとおりである。遺物は縄文時代から近世期に属するものである。

（1）大型土坑

【位置・時期】調査区のほぼ中央部に位置する。北西約6mに井戸が位置する。
遺構の時期は、覆土層からは14世紀代の遺物が多く出土するが不明である。

【形状・規模】平面形態は不整の惰円形に近い。南側は床面の緩く傾斜する。半地下式の遺構で床面から地表面への出入口とも考えられる。床面はローム層を掘り込み硬化しており、小ピットと土坑状の掘り込みもみられる。半地下式の遺構なのか土坑状なのかは不明である。

確認面の規模は長軸76.5cm、短軸44.4cm、底面の規模は長軸(72)cm、短軸32cm、深さ83.8cmである。大型土坑内の土坑状掘り込みとピットの詳細については第40表のとおりである。

（2）井戸

【位置・時期】調査区中央部やや北寄り、大型土坑の北西約6mに位置する。

遺構の時期は、覆土層の観察から近世期以降と考えられる。

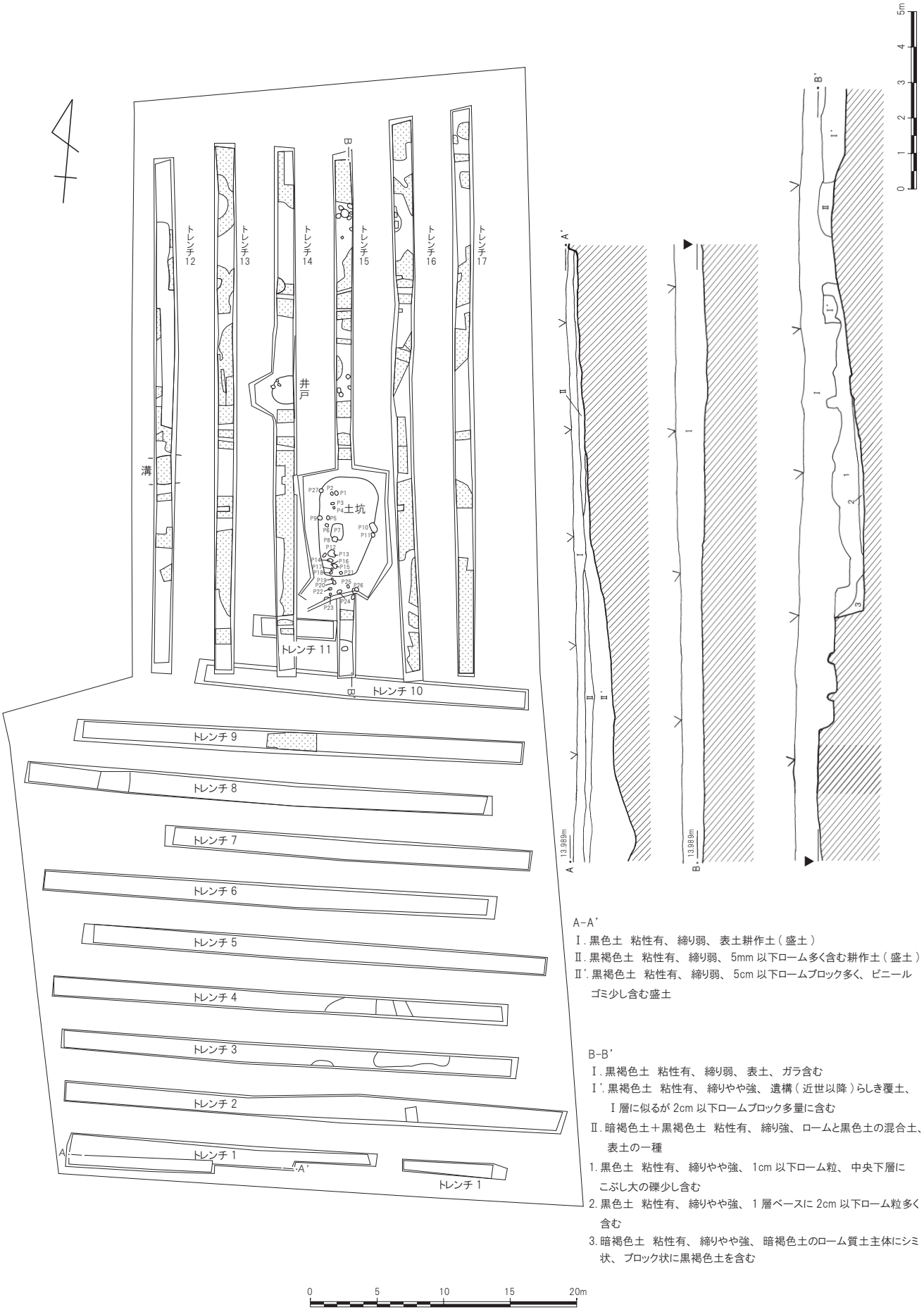
【形状・規模】平面形態は惰円形に近いが中段から底部にかけては隅丸方形を呈する。ローム層を深く掘り込んでおり、底部は未確認である。壁の上部はロート状に開き中央部から底部にかけては垂直に近くなる上部に小ピット3基がみられる。小ピットの詳細は以下のとおりである。P1は円形を呈し確認面の規模は27×24cm、底径7×6cm、深さ26.8cm。P2は円形を呈し確認面の規模は20×15cm、底径5×4cm、深さ20.1cm。P3は方形を呈し確認面の規模は21×20cm、底径6×5cm、深さ48.6cm。

（3）ピット

ピットは、大型土坑の西から南側に集中して検出した。約20～30㎝の大きさのピットが多く、用途等は不明である。

【遺物出土状況】第110図の1・2は床面直上から、口縁部を下にした状態で出土した。それ以外の遺物は覆土層からの出土である。

【出土遺物】　出土遺物の詳細については、第110・111図及び第41表を参照。



A-A'
Ⅰ. 黒色土　粘性有、 締り弱、 表土耕作土 (盛土)
Ⅱ. 黒褐色土　粘性有、 締り弱、 5mm 以下ローム多く含む耕作土 (盛土)
Ⅱ'. 黒褐色土　粘性有、 締り弱、 5cm 以下ロームブロック多く、 ビニールゴミ少し含む盛土

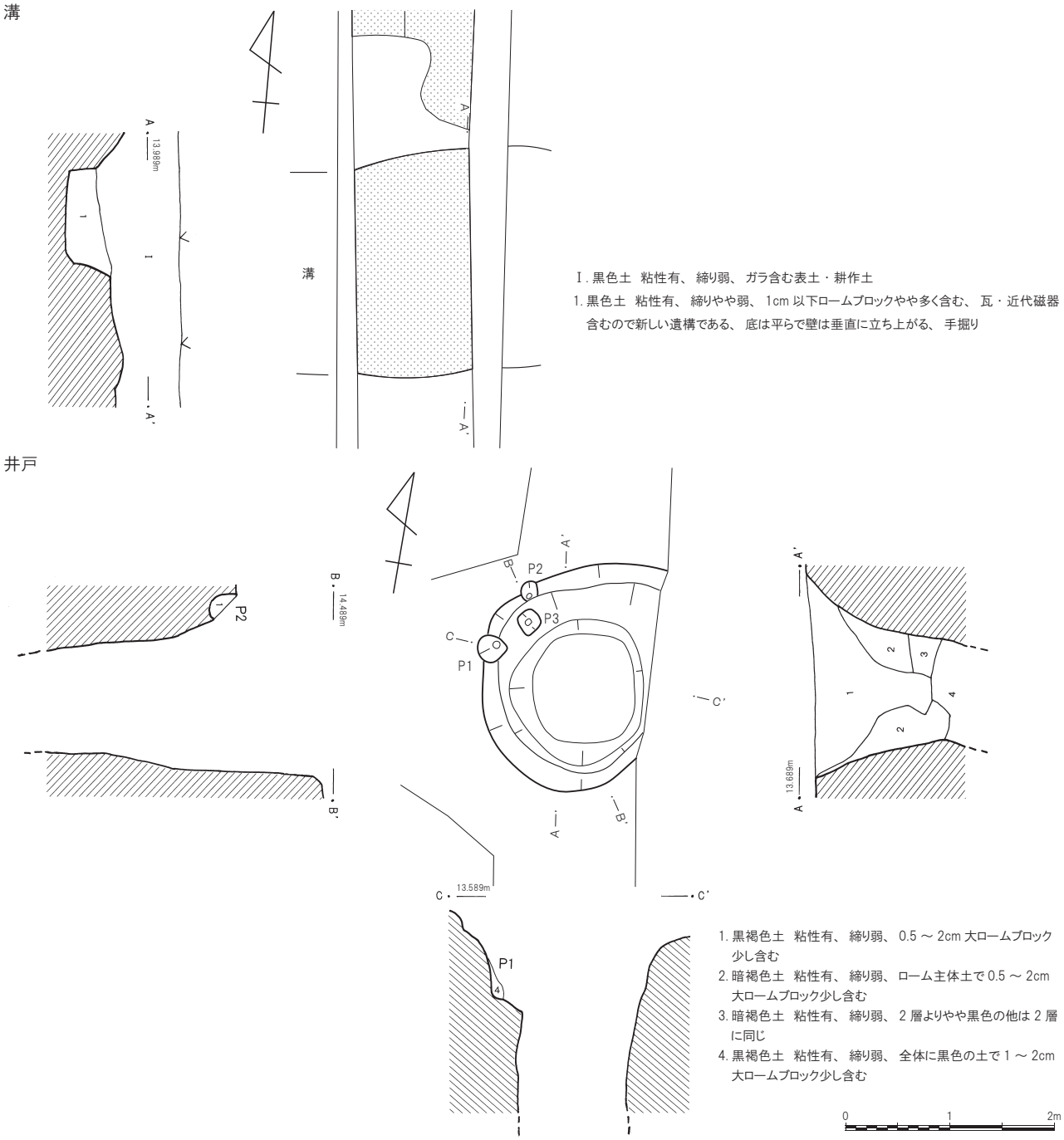
B-B'
Ⅰ. 黒褐色土　粘性有、 締り弱、 表土、 ガラ含む
Ⅰ'. 黒褐色土　粘性有、 締りやや強、 遺構 (近世以降) らしき覆土、 Ⅰ層に似るが 2cm 以下ロームブロック多量に含む
Ⅱ. 暗褐色土＋黒褐色土　粘性有、 締り強、 ロームと黒色土の混合土、 表土の一種
1. 黒色土　粘性有、 締りやや強、 1cm 以下ローム粒、 中央下層にこぶし大の礫少し含む
2. 黒色土　粘性有、 締りやや強、 1 層ベースに 2cm 以下ローム粒多く含む
3. 暗褐色土　粘性有、 締りやや強、 暗褐色土のローム質土主体にシミ状、 ブロック状に黒褐色土を含む

第 107 図　神明後遺跡第 60 地点遺構配置図 (1/400)、土層 (1/150)

第 108 図　神明後遺跡第 60 地点大型土坑・ピット (1/60)

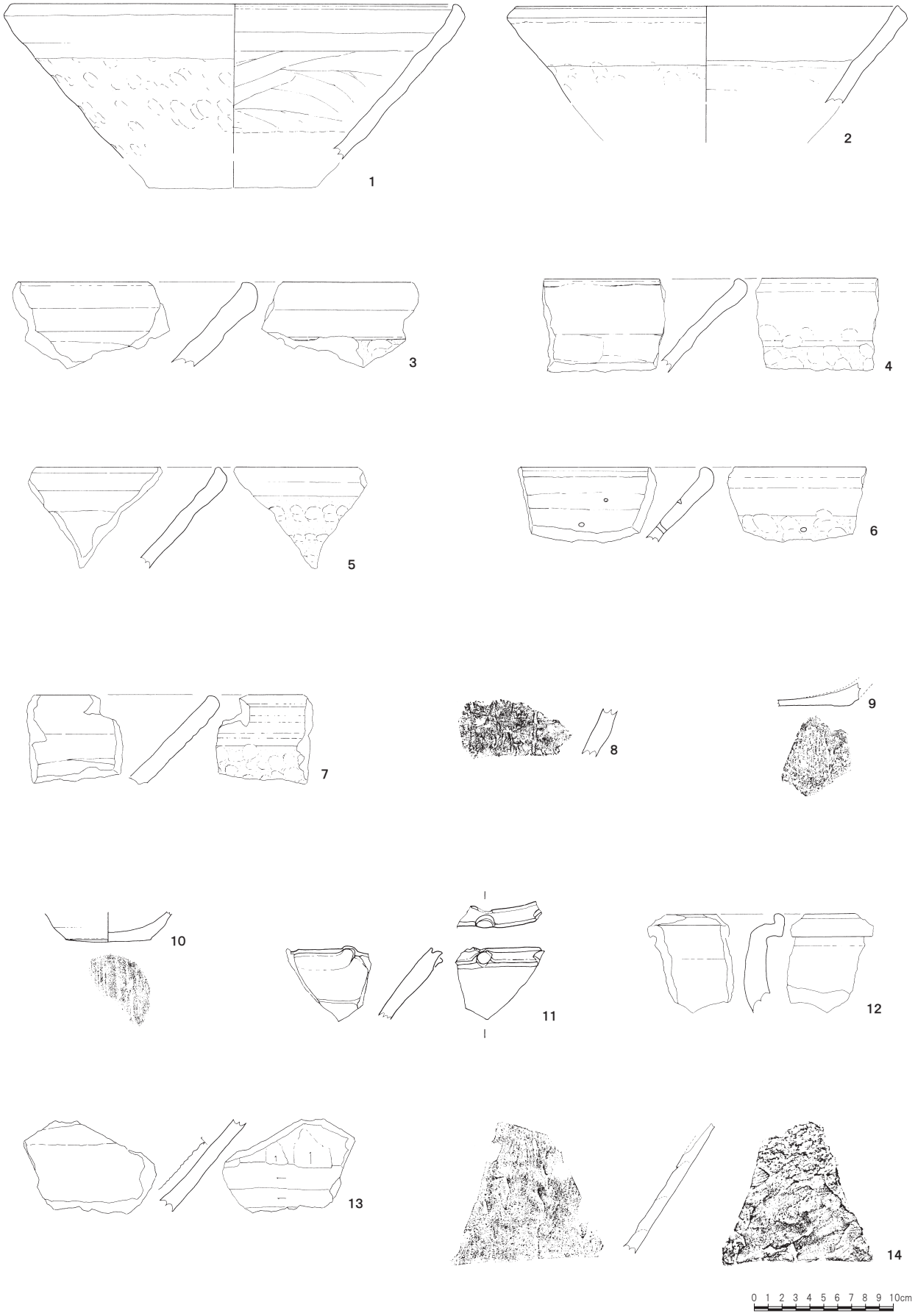
第 40 表　神明後遺跡第 60 地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	39 × 36	18 × 10	49.8
2	楕円形	33 × 20	19 × 9	15.6
3	楕円形	25 × 14	4 × 4	17.9
4	楕円形	19 × 15	7 × 5	35.4
5	隅丸方形	32 × 26	12 × 9	51.7
6	楕円形	29 × 18	9 × 7	32.9
7	隅丸方形	111 × 77	84 × 57	25.3
8	隅丸方形	40 × 26	20 × 14	55.9
9	円形	37 × 29	15 × 6	60.9
10	円形	27 × 22	17 × 13	77.2
11	隅丸方形	26 × 22	9 × 6	39.0
12	円形	56 × 38	16 × 11	60.2
13	円形	30 × 26	11 × 10	58.3
14	円形	39 × 33	15 × 11	98.4
15	楕円形	36 × 30	10 × 5	54.7
16	円形	26 × 20	9 × 7	38.4
17	不整形	22 × 12	10 × 5	35.6
18	円形	25 × 18	14 × 10	45.5
19	円形	19 × 16	12 × 7	19.9
20	円形	24 × 23	14 × 9	76.7
21	隅丸方形	26 × 20	14 × 10	34.0
22	隅丸方形	19 × 18	6 × 4	37.8
23	隅丸方形	24 × 20	11 × 6	48.6
24	隅丸方形	40 × 27	16 × 12	37.4
25	隅丸方形	41 × 22	16 × 9	61.5
26	隅丸方形	30 × 22	14 × 11	56.4
27	円形	27 × 27	15 × 11	64.7
28	不明	34 × (15)	15 × (6)	34.8
土坑状掘り込み	隅丸方形	111 × 77	84 × 57	25.3

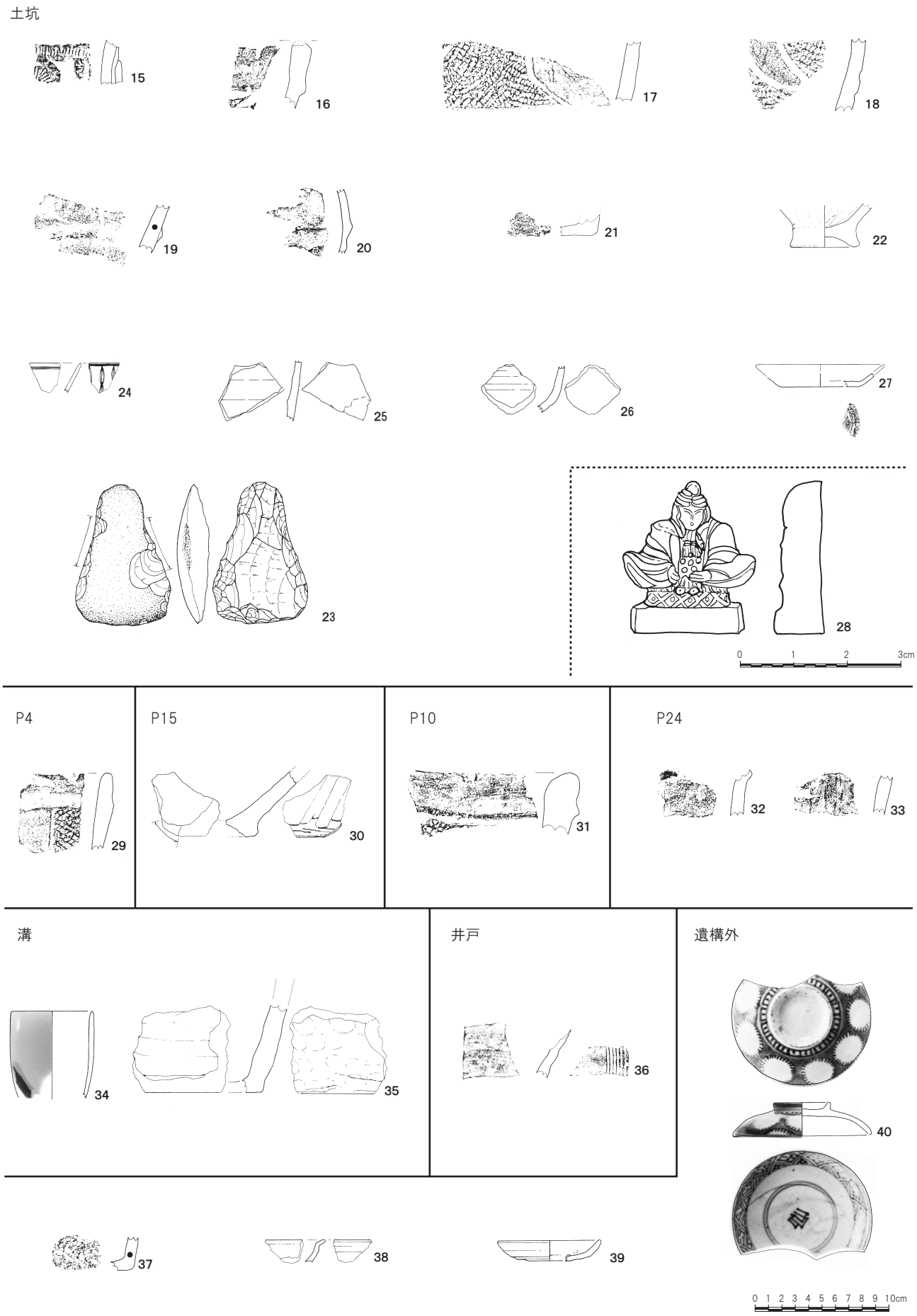


第 109 図　神明後遺跡第 60 地点溝・井戸 (1/60)

土坑



第 110 図　神明後遺跡第 60 地点出土遺物① (1/4)

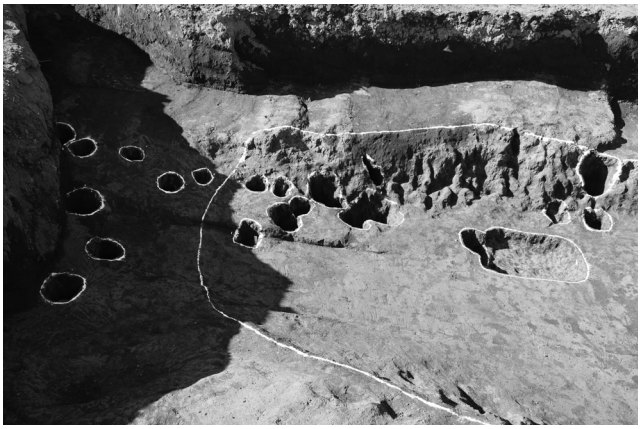


第 111 図　神明後遺跡第 60 地点出土遺物②（1/4・1/1）

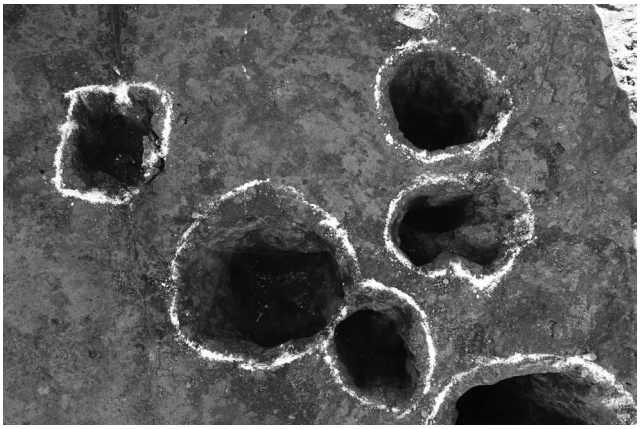
第41 表　神明後遺跡第60 地点出土遺物観察表(単位cm ・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
1	土坑	在地産・瓦質こね鉢	33.0	–	(11.2)	体部外面指頭圧痕、体部内面ナデ調整、口縁部横ナデ調整、口唇部は玉縁状に肥厚しながら上方にやや尖る、胎土軟質、胎土色調灰色、器面色調暗灰色、胎土に白色鉱物を含む、体部上位と内面口縁部付近と口唇部上方端に使用による摩耗、器面が剝がれるように割れる	14 世紀後半
2			28.7	–	(7.1)	体部外面指頭圧痕、体部内面ナデ調整、口縁部横ナデ調整、口唇部は若干内側に尖り気味の箱形、胎土・器面暗灰色で一部に暗い肌色、胎土に白色鉱物を含む、口縁部外面から口唇部にかけて煤付着	14 世紀後半
3			–	–	–	体部外面指頭圧痕、体部内面ナデ調整、口縁部横ナデ調整 (外面はナデが強く断を持つ)、口唇部は玉縁状に肥厚しながら上方にやや尖る (1 に近いがより厚手)、胎土軟質、胎土色調灰白色、器面色調暗灰色、胎土に白色鉱物を含む、口唇部上方端に使用による僅かな摩耗	14 世紀後半
4			–	–	–	体部外面指頭圧痕、体部内面ナデ調整、口縁部横ナデ調整、口唇部はやや端部を内側に丸く収める、胎土軟質、胎土・器面色調灰色、胎土に白色鉱物を含む、口唇部端に使用による摩耗	14 世紀後半
5			–	–	–	体部外面指頭圧痕、体部内面ナデ調整、口縁部横ナデ調整、口唇部は玉縁状に肥厚しながら上方にやや尖る、胎土軟質、胎土色調灰色、器面色調暗灰色、胎土に白色鉱物を含む、口縁部端部が使用による摩耗、 1 と同一個体の可能性あり	14 世紀後半
6			–	–	–	体部外面指頭圧痕、体部内面ナデ調整、口縁部横ナデ調整、口唇部は玉縁状に肥厚しながら内側に丸く収める、胎土軟質、胎土色調灰色、器面色調暗灰色、胎土に白色鉱物を含む、口縁部端部が使用による摩耗、残存部下部に貫通した補修穴が 1 ヶ所と未貫通が 1 ヶ所あり	14 世紀後半
7			–	–	–	体部外面指頭圧痕、体部内面ナデ調整、口縁部横ナデ調整、口唇部は玉縁状に肥厚せず端部を内側にやや突出、胎土軟質、胎土色調肌色、外器面色調黄褐色、内器面暗灰色、胎土に橙色の粒子を含む	14 世紀後半
8			–	–	–	胴部片、外面指頭圧痕と縦位のヘラケズリ調整、内面使用による摩耗、胎土色調灰褐色、一部被熱による赤色化カ、外面煤付着	14 世紀後半
9			–	–	–	底部片、1・5 の底部片カ、底部静止糸切り離しカ、内面は使用により著しく摩耗	14 世紀後半
10		かわらけ	–	6.1	(2.1)	底部片、轆轤使用、底部糸切離後内面ナデ底部板状圧痕、胎土軟質、胎土色調肌色、胎土に橙色粒子と海綿骨針を含む	14 世紀後半
11		常滑産・片口鉢	–	–	–	口縁部片、口縁部は箱形でやや外に張出す、片口部の成形は直線的、使用による摩耗はほぼない、常滑 8 型式	14 世紀後半
12		常滑産・壷	–	–	–	口縁部片、常滑 5 ～ 6 型式	13 世紀中頃
13		山茶碗系片口鉢	–	–	–	胴部片、腰部横位のヘラケズリ、内面使用による摩耗	13・14 世紀頃
14		常滑産・甕	–	–	–	腰部、内面やや摩耗	13・14 世紀頃
15		縄文式土器	–	–	–	隆線脇にキャタピラ文	勝坂式
16			–	–	–	口縁部無紋帯下に断面三角形に近い隆線	加曽利 E Ⅳ
17			–	–	–	地紋 LR、文様を沈線で区画	加曽利 E Ⅳ
18			–	–	–	地紋 LR、文様を沈線で区画	加曽利 E Ⅳ
19			–	–	–	断面三角形の隆線	縄文中期
20			–	–	–	小壷カ、薄手、器面黒色処理、断面三角形の隆線、器面ミガキ	加曽利 E Ⅳ
21			–	–	–	底部片	縄文中期
22			–	–	–	脚部片	加曽利 E
23		打製石斧	10.5	7.2	2.4	石材ホルンフェルス	縄文中期
24		肥前産・小広東碗	–	–	–	呉須染付、外面梵字文のくずし字文	18 世紀末
25		瀬戸美濃産・灰釉徳利	–	–	–	腰部片	江戸後期
26		瀬戸美濃産・灰釉片口	–	–	–	腰部片	江戸後期
27		江戸在地産・かわらけ	–	5.8	(1.1)	轆轤成形、底部糸切離痕を残す	江戸時代
28		江戸在地産・土人形				天神様、型作り、土師質、焼成良好、器面に雲母 (キラ) が若干残る、裏面に指頭痕及び二本の棒で斜めに差し込んだ跡がある	幕末
29	ピット 4	縄文式土器	–	–	–	地紋縄文 LR、口縁部無紋帯の下に横位に微隆起線、沈線で区画された無紋帯が垂下	加曽利 E Ⅳ
30	ピット 15	常滑産・甕	–	–	–	赤焼	江戸時代
31	ピット 10	縄文式土器	–	–	–	隆線は微隆起線に近い	加曽利 E Ⅲ
32	ピット 24	縄文式土器	–	–	–	口縁部無紋帯カ、隆線は断面カマボコ状	縄文中期
33		縄文式土器	–	–	–	外面ミガキ	縄文中期
34	溝	磁器碗	–	–	–	絵は緑色顔料	明治後期以降
35		在地産・瓦質壷	–	–	–	底部片、外面指頭痕・指ナデ、胎土に白色鉱物含む	13・14 世紀頃
36	井戸	瀬戸美濃産・擂鉢	–	–	–	錆釉、すり目	15 世紀末～16 世紀前半カ
37	遺構外	縄文式土器	–	–	–	底部片	縄文中期
38		瀬戸美濃産・天目茶碗	–	–	–	大窯期、鉄釉	16 世紀後半カ
39		瀬戸美濃産・灯明皿	–	–	–	鉄釉、内面目痕	幕末
40		肥前産・磁器碗蓋	–	–	–	呉須染付、外面雪輪文、内面源氏香文・四方襷文	幕末

神明後遺跡第 60 地点大型土坑①



神明後遺跡第 60 地点大型土坑②



神明後遺跡第 60 地点ピット 15 ～ 18・21

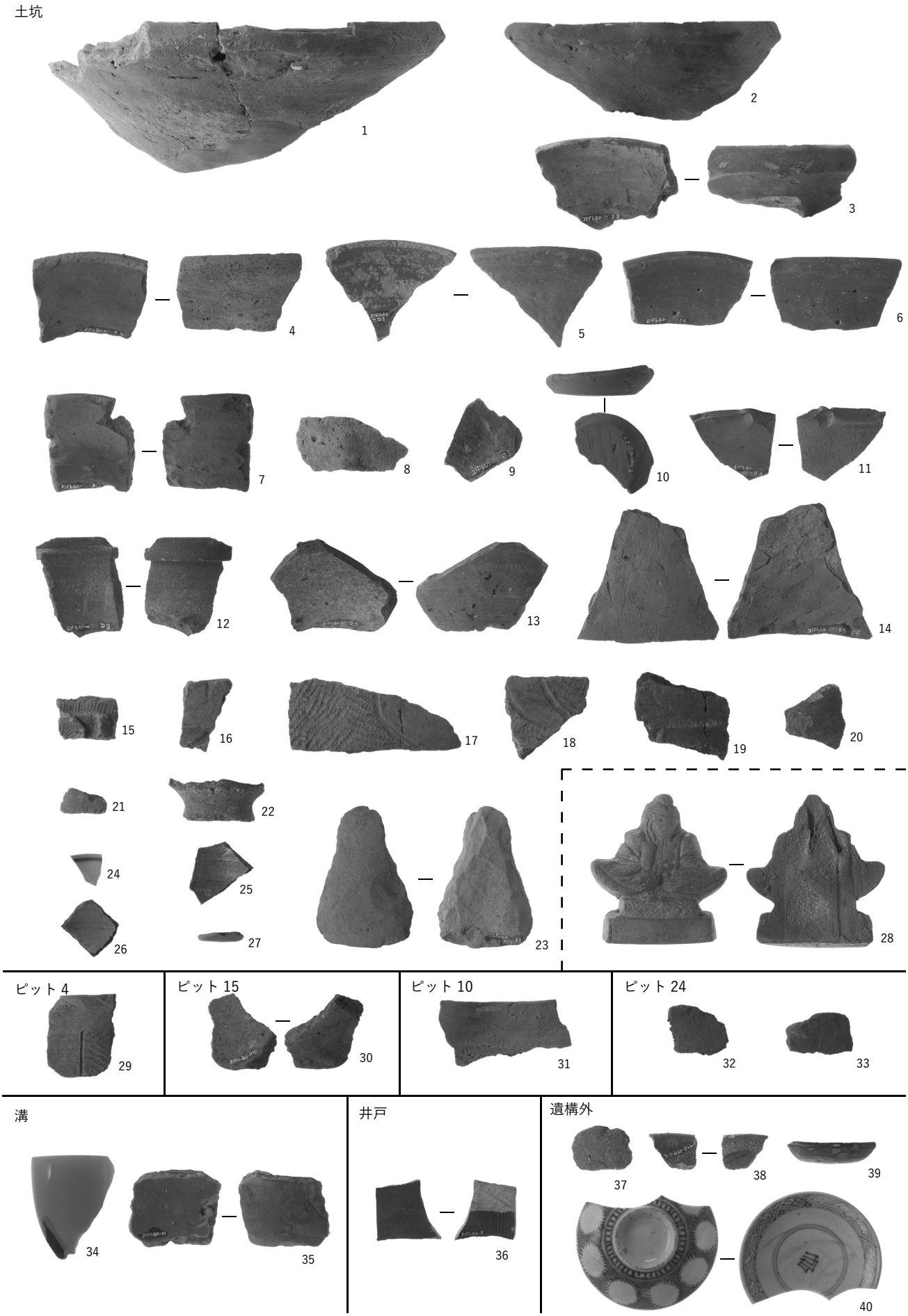
神明後遺跡第 60 地点井戸

神明後遺跡第 60 地点井戸土層

神明後遺跡第 60 地点トレンチ 12

神明後遺跡第 60 地点調査風景①

神明後遺跡第 60 地点調査風景②



神明後遺跡第 60 地点出土遺物